

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

86

秋の企画展

わくわく！化石大集合

—よみがえる300万年前のふくしま—

福島県立博物館



秋の企画展

わくわく化石大集合 — よみがえる300万年前のふくしま —

会期 10月6日(土) ~ 11月25日(日)

鮮新世って、どんな時代だったの？

今から300万年前頃の時期は、地質時代で新第三紀鮮新世と呼ばれています。この時代の後半には、南北アメリカ大陸をつなぐパナマ地域が陸地となり、太平洋と大西洋の海流が隔てられて、北極の水河(氷床)が大規模に広がるなど、地球規模の大きな環境変化が起こったとされています。そしてこの頃、日本列島では山脈の姿が次第にはっきりとしてきて、現在の地形の骨組みができてきました。陸上火山活動も盛んに起こっていました。

福島県内の浜通り地域には、クジラなど海に住む哺乳類や貝などの化石、また、会津地域には当時の森林のようすを示す植物化石など、この時代の海や陸地のようすを示す自然史記録がいくつも残されています。また、最近、浜通りからは、アシカやオットセイなど鯨脚類の化石もたくさん見つかっています。特に、この時代のゾウのキバの化石は、県内では初めての発見です。

この企画展では、これらの化石や岩石などの資料に基づいて、鮮新世のふくしまの自然のようすをご紹介しますと思います。



- (右上) センダイゾウ *Trilophodon sendaicus*
新第三紀鮮新世前期 竜の口層 宮城県仙台市青葉区
東北大学総合学術博物館蔵
- (右下) マクラガイ *Oliva mustelina*
新第三紀鮮新世 掛川層群 静岡県掛川市
東北大学総合学術博物館蔵
- (左上) アシカ類?のなかま (肋骨) Otariidae gen. et sp. indet.
新第三紀鮮新世後期 富岡層 富岡町小良ヶ浜 個人蔵
- (左中) フジツボのなかま *Balanus* sp.
新第三紀鮮新世後期 カルーサハチエ層 アメリカ合衆国フロリダ州
館蔵
- (左下) エゾタマキガイ *Glycymeris yessoensis*
新第三紀鮮新世後期 富岡層 富岡町小良ヶ浜
平宗雄氏蔵

展示内容

イントロダクション—鮮新世とは？

I. 海のようすと海の生き物

1. 鮮新世の海の哺乳類

- (1) クジラとイルカ
- (2) アシカやオットセイたち

2. 貝化石が語る鮮新世の海の環境

- (1) 鮮新世の貝化石と海の新古気候
- (2) 浜通り地域の貝化石と海の新古気候

II. 森のようすと陸の新古気候

- (1) 陸の哺乳類化石
- (2) 陸上火山の噴火
- (3) 植物化石と陸の新古気候



ゾウのキバ
Proboscidea gen. et sp. indet.
新第三紀鮮新世後期
富岡層
富岡町小良ヶ浜
平宗雄氏蔵



アケボノゾウ
Stegodon aurorae (複製)
新第三紀鮮新世後期
蒲生層
滋賀県多賀町
飯田市美術博物館蔵
写真提供：多賀町立博物館

第2部

みる・さわる世界の化石

世界の化石を集めた第2部。古生代の三葉虫、中生代のアンモナイトや恐竜の骨、新生代のゾウの化石など、過去5億年以上にわたる生物の歴史を語る証拠品をご紹介します。日本では見つからないめずらしい化石もたくさん！化石にさわれるコーナーもあります！

みんなで見に来て、さわりに来てね！

ウミサソリ
Eurypterus remipes
シルル紀
フィドラーグリーン層
アメリカ合衆国
ニューヨーク州
館蔵



関連行事

○記念講演会

「ふくしまにもいた！アシカ・オットセイ
— 浜通りの化石に見る鮮新世の哺乳類 —
講師 国立科学博物館研究主幹 甲能直樹さん
日時 11月3日(土) 午後一時半～三時

○展示解説会

講師 当館学芸員 相田優
日時 10月7日(日)、11日(日)、
12日(土)、15日(日)
*11月3日は、三時～五分。
それ以外は午後一時半から。

■秋の企画展「わくわく化石大集合—よみがえる300万年前のふくしま—」は、10月6日(土)～11月25日(日)まで開催しています。
■観覧料 一般・大学生500円(四〇〇) / 高校生300円(二四〇) / 小中学生200円(一六〇) () は20名以上の団体料金です。

- (表紙右上) ブンブクチャガマのなかま *Linthia* sp.
- (左上) ユキノカサ *Acmaea pallida*
- (左中) エゾボラのなかま *Neptunea antiqua*
- (左下) ディココエニアのなかま *Dichocoenia* sp.

「樹と竹―列島の文化、北から南から―」

関連事業

◎記念シンポジウム

平成一九年七月二二日（日）

「樹と竹」

パネラー 物質文化研究所 一言倉代表 名久井文明さん
鹿児島歴史資料センター 黎明館学芸課長 川野和昭さん

当館学芸員 佐々木長生
コーディネーター 当館館長 赤坂憲雄

平成一九年度夏の企画展「樹と竹―列島の文化、北から南から―」は、七月二二日（土）から九月一七日（月・祝）の会期で開催されました。落葉広葉樹林のブナ林と照葉樹林の竹林、樹皮民具と竹の民具との比較など、北の文化と南の文化との比較から日本列島の文化を見ようと、鹿児島県歴史資料センター黎明館と共同企画したものです。

同展を記念して行ったシンポジウム「樹と竹」では、赤坂館長より、日本列島の文化には、北と南、東と西といくつもの日本・東北というさまざまな文化が多重に存在しており、企画展「樹と竹」は、北と南の植生から民具を通して文化を見ようとするものだという、展示趣旨の説明がありました。それを受けて、各パネリストがそれを証明すべく発表を行いました。

名久井さんからは、北国の樹皮製民具の起源について、出土した縄文時代の籠の編み方・編み目など

を中心にお話があり、また現存する籠類との比較からその技術の変遷も述べられました。特に、佐賀県の東名遺跡出土の七千年前の編みカゴに六つ目編みが存在しており、現在の籠製作技術が確立していたことを、民具との比較から論じられました。また、土器以前には樹皮容器が煮炊きに使われたのではないかとという仮定に、自ら実験を試みた樹皮の鍋の存在の可能性も論じられました。

川野さんは、北の皮箕と南の竹箕を紹介した後、皮箕の製作方法である折り返しの技法が、南の竹箕にまで継承されていること。南九州では、折り返しによる竹箕を製作された人たちが差別視されたことを指摘されました。鹿児島から南に見られる円形箕および折り返しのない片口箕には、差別が見られないこともあげられています。北の片口箕と南の円形箕から、箕が語る東アジアの文化を提起されました。

佐々木は、会津地方の樹皮製民具を紹介しながら、北国の樹皮文化の存在を解説しました。南会津地方のシナ糸からみの十字形のヒシギ（菱木）が、秋田市と



アイヌ民族にも使用されていること、シナ織りの衣類の存在など、会津地方の樹皮製民具と東北・北海道地方の民具との比較照合を行いました。その系譜は、アムール川流域の白樺製民具にもたどれるものであることも、名久井さんの研究に依りながら発表しました。

それぞれの発表ののち、聴講者の方々からの質問とそれに対する解説など、活発な質疑応答が行われました。箕の使用方法的な体験、鮭・鱒の漁具の文化的価値とその使用分布など、北と南の文化の相違など、展示を通しての質疑が多く交わされました。

◎記念講演員

平成一九年七月二九日（日）

「もう二つの日本文化」

講師 福島県文化財センター 白河館館長 藤本強さん



藤本さんは、北の文化・南の文化とそれらに接する「ボカシの地帯」という構想のもと、列島文化におけるいくつもの文化をわかりやすく解説されました。

■記念シンポジウムと記念講演会により、日本列島にはいくつもの文化が多重に構成されて今日に至っていることが紹介できたものと思います。（民俗担当 佐々木長生）

Q…クジラの祖先は陸上で生活していたというのはほんとうですか？

A…現在の海にはたくさんクジラが泳いでいますが、クジラは魚類ではなく、われわれ人間と同じくれっきとした哺乳類です。クジラ類は現在八五種が知られており、ヒゲクジラ類が一五種、残り七〇種がハクジラ類です。イルカは小型のハクジラを指す一般的な呼び方です。

最古のクジラとされている化石は、およそ五千万年前のパキスタンの地層から発見されたもので、パキケタス（パキスタンのクジラという意味）と名付けられました。体長二メートル足らず、オオカミのような外見で、ヒヅメのある四本の足を持っています。

クジラの祖先

した。この陸上を歩いていた哺乳類がなぜクジラの祖先かという点、クジラと同じ厚い耳骨を持っているからです。クジラは、音として水中を伝わる振動を、骨に伝える骨そのものを振動させて聞くため、厚く緻密な耳の骨を持っています。ただ、陸上で生活するパキケタスがどのように音を聞いたかについては、長い下顎を地面につけて、足音などの振動を耳骨に伝えて聞いたという、おもしろい仮説が発表されています。

パキケタスを含めて、初期のクジラは原鯨類（ムカシクジラ類）として分類されています。原鯨類はテチス海（現在のインドから地中海にかけて広がっていた海）に進出しました。原鯨類は、四肢を持ち、

歯も切歯・犬歯・臼歯の区別があるなど、陸上で発達した哺乳類の形質を多く残していました。やがて、前足は海を泳ぐために便利なヒレ状になり、後足は極端に小さくなり、流線型の外形をもつにいたります。水面で呼吸をスムーズに行うために、鼻の位置が頭の頂上の方へ移動していきました。歯については、切歯・犬歯・小臼歯・大臼歯の区別がありましたが、現在のハクジラ類の歯のように同じ形の円錐形の歯（同形歯性）となりました。この理由は、ほとんどのえさ（魚やイカなど）は丸呑みされるので、噛み砕く必要がないためです。歯の代わりにプランクトンなどを濾し取って食べるのに都合の良い鯨ヒゲを持つヒゲクジラ類も登場しました。ヒゲク

Q&A

回答者 自然担当 竹谷陽二郎

ジラ類は、水中では重力を支える必要がないため巨大化し、地球史上、動物として最大の大きさ（体長三〇メートル以上）をもつシロナガスクジラが誕生しました。

このように、クジラ類は実に巧妙に海洋での生活に適応し、海洋に自分たちの楽園を築いてきました。しかし、近代を中心に、人類による油や食用としての捕鯨が増えたことにより、クジラの数が激減し、シロナガスクジラは絶滅の危機に瀕しています。

一〇月六日に開催される企画展「わくわく！化石大集合 ―よみがえる三〇〇万年前のふくしま―」では、今からおおよそ三〇〇万年前に生息していた生



ミンククジラ全身骨格 現生 岩手県立博物館蔵

松平定信と「写し」

小林めぐみ 美術担当

複製を作るということは、綿密に資料の調査をすることに繋がります。材料は何なのか、どのような技法でどんな手順で作られているのか。オリジナルが語りかけてくる生い立ちを読み取り、できるだけそれを再現することは、真にその資料を理解するための有効な手段です。

江戸時代後期の白河藩主であり、幕府老中としても活躍した松平定信は、いくつか古い物の複製を作らせています。白河市にある鹿島神社が所蔵する「楯無鎧写」は、その代表例でしょう。甲斐の武田家伝来の「楯無鎧」は、楯もいらぬほど堅固であるというその名の通り優れた甲冑として古来名高いものです。武田信玄によって菅田天神社に奉納され、現在も、国宝として山梨県塩山市にある同社に伝わっています。そのオリジナルを模して、定信が寛政七年（一七九五）頃に作らせたのが「楯無鎧写」なのです。

製作にあたった明珍宗政・宗妙という甲冑師は、その数年前に江戸でオリジナルの楯無鎧の修理に携わっていました。おそらくこの折の調査と経験に基づいて、「写し」の製作が行なわれたのではないかと考えられます。オリジナルを修理しながら、その材質や技術を探り、できるだけ同じ方法で複製を作る。この一連の作業は、定信たちからも遠い時代であった平安時代の甲冑に対する、優れた研究活動でもあったでしょう。同じように古いオリジナルを写して作らせた可能

性がある資料が、旧蔵者のご厚意により、近年県立博物館の収蔵品となりました。定信に仕えた刀工・手柄山正繁による「小鳥丸写しの脇差」です。「小鳥丸太刀」は、平家伝来の名刀として『平家物語』にも記述のある太刀です。源平の合戦で平家が滅亡した後、所在不明であったものが、江戸時代に入って平家の末流である伊勢家の所蔵品として再び世に現れました。伊勢家当主により、三代将軍家光、八代将軍吉宗、一代将軍家斉の台覧にも供されています。明治時代に対馬の宗家の手に渡り、さらに明治天皇に献上されて、現在は御物として宮内庁が所蔵しています。

この名高い名刀を写して、手柄山正繁が脇差を鍛えたのは文化一〇年（一八一三）のこと。正繁は、宝暦一〇年（一七六〇）に二代氏繁という刀工の次男として姫路に生まれました。天明八年（一七八八）に定信のお抱えとなり、以降江戸で活動、文政一三年（一八三〇）に亡くなっています。「小鳥丸写しの脇差」を作ったのは、五三歳の時でした。

長い両刃の鋒などオリジナルの特徴を踏まえていますが、全体に対する両刃部分の割合や反りなどが異なり、正繁が作った「小鳥丸写し」は、全くの複製にはなっていません。大



脇差 銘 手柄山甲斐守正繁 当館蔵

きさも長さ六二・七cmのオリジナルからかなり小さくなり、長さ四八・〇cmの脇差へとその形態を変えています。これらの違いは平安時代の古刀を江戸時代に写すことの技術的な難しさのためであったのでしょうか。あるいは写しを作るにあたって、きちんとオリジナルを調査することができなかったのでしょうか。それとも、試験的に小鳥丸太刀の脇差版を作ったのでしょうか。主君である定信が、写しの製作にどの程度関わったのかも含めて、今後明らかにしていければと思います。

トピックス

平成19年度福島県立博物館移動展

博物館がやってきた!! ー県立博物館収蔵庫のヒ・ミ・ツー

会場：双葉町歴史民俗資料館
会期：10月13日（土）～11月25日（日）

博物館の奥ふかく・・・収蔵庫とよばれる部屋には、たくさんヒミツが眠っています。ふだんは絶対みられない、そんなヒ・ミ・ツを少しだけのぞいてみませんか。

- 展示構成 収蔵庫5つのヒミツ
- その① 古墳のヒミツが入っています。
 - その② いいものいっぱい入っています。
 - その③ こんなものまで入っています。
 - その④ 集める情熱入っています。
 - その⑤ ホンモノそっくり入っています。



主な出品資料

原山1号墳の埴輪、古代貨幣、郷土玩具コレクション、草花鶴亀螺鈿鼓箱、泰西王侯騎馬図屏風（複製）、三貴地貝塚の縄文土器（複製）など。

関連行事

まるごと体験はくぶつかん！ 県立博物館のいろんな体験が楽しめる！

11月3日（土）：午後1時～午後4時
11月4日（日）：午前9時30分～午後3時

- 体験1 勾玉づくり
- 体験2 糸つむぎ、木ずるす体験
- 体験3 時代衣装を着てみよう！
- 体験4 雪国のよそおい

料金：双葉町歴史民俗資料館観覧料
大人200円、高校生100円、
小中学生 無料
※11/3（土）文化の日は無料
開館時間：午前9時30分～午後4時30分
（入館は午後4時まで）
休館日：月曜日・火曜日・第3日曜日
祝日（11/3は開館）

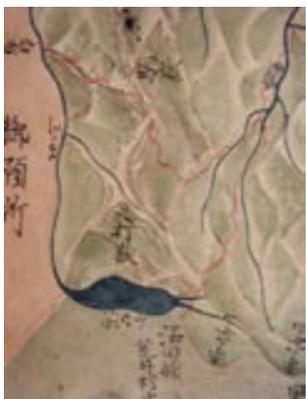
冬の展示

南会津の地図・絵図展

八月三〇日、「尾瀬国立公園」が誕生し話題になりました。日光国立公園から独立した尾瀬地域に、会津駒ヶ岳や、田代山・帝釈山周辺が加わった自然公園です。尾瀬の湿原や南会津の山々は、江戸時代にはどのような姿を見せていたのでしょうか。この地域を含む南会津のさまざまな地域の山や川あるいは村のようすを描いた多彩な地図・絵図類を中心に展示します。ビジュアルな展示品を通して、江戸時代には南山御蔵入領と呼ばれた、この地域の豊かな自然と人びとの多様な生業や暮らしについて知っていただきたいと思えます。

この展示は、福島市にある福島県歴史資料館との共催で、同館の収蔵品の中から特色のあるものを選び、当館の収蔵品も一部加えて展示公開します。

（歴史担当
高橋 允）



南山御蔵入領絵図 (部分) 当館蔵

■冬の展示は、平成二〇年一月一九日（土）から二月二四日（日）まで

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「けんばくの宝―県博収蔵美術工芸資料展」
会期 九月二日(土)～十一月八日(日)
「会津暦」
会期 十一月三日(金)～二十日(日)

第3土曜イベント

「友の会文化祭」
日時 一〇月二〇日(土)

四季のイベント「語りと調べ」
出演 おはなしおばさん 横山幸子さん
篠笛演奏家 黒沢淳子さん

日時 一月一七日(土)午後一時半～三時
四季のイベント「クリスマスコンサート」
～チェンバロの調べ～

講師 チェンバロ奏者 尾形純子さん
日時 一月二五日(土)午後二時～四時

講演・講座

※は要申込

◎企画展関連行事

◎記念講演会

「ふくしまにもいた!アシカ・オットセイ」
―浜通りの化石に見る鮮新世の哺乳類―

講師 国立科学博物館研究主幹 甲能直樹さん
日時 一月三日(土)午後一時半～三時

◎展示解説会

講師 学芸員 竹谷陽二郎

日時 一〇月七日(日)午後一時半～二時半
講師 学芸員 竹谷陽二郎

日時 一〇月二二日(日)午後一時半～二時半
講師 学芸員 相田優

日時 一月三日(土)
午後三時一五分～四時一五分

講師 学芸員 相田優

日時 一月二五日(日)午後一時半～二時半

◎美術講座

「展示室講座5 魅力発見!けんばくの宝」
講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ

日時 一〇月二七日(土)午後一時半～三時
※「漆の技に挑戦―南蛮漆器の飾り皿I」

講師 会津短期大学部准教授 井波純さん
日時 一月二五日(日)午後一時半～三時

※「漆の技に挑戦―南蛮漆器の飾り皿II」
講師 会津短期大学部准教授 井波純さん

日時 一月二一日(土)午後一時半～三時
◎考古学講座

◎考古学講座

※「会津古墳巡り」
講師 学芸員 横須賀倫達 大竹正浩 他

日時 一〇月八日(月)午前九時～午後四時
※「高校生のための考古学基礎講座⑩」申込終了

講師 学芸員 森幸彦 他
日時 一〇月一〇日(水)午後五時

※「高校生のための考古学基礎講座⑪」申込終了
講師 学芸員 森幸彦 他

日時 一〇月二四日(水)午後五時
※「勾玉・ガラス玉でアクセサリをつくらう」

講師 学芸員 藤原妃敏 横須賀倫達
日時 一月二一日(日)

午前二時～午後三時
◎歴史講座

「シリーズ磐梯山2 磐梯山と温泉」
講師 学芸員 高橋 充

日時 一〇月六日(土)午後一時半～三時
「シリーズ磐梯山3

噴火報道と明治の新聞事情」
講師 学芸員 星 幸

日時 一月一〇日(土)午後一時半～三時
「シリーズ磐梯山4

明治期子ども読み物と磐梯山」
講師 学芸員 佐藤洋一

日時 一月二八日(土)午後一時半～三時

◎自然史講座

※「シリーズ自然史1 化石をさがそう」
講師 学芸員 相田優

日時 一〇月三日(土)午前八時半～午後四時半
※「シリーズ自然史2 化石標本をつくらう」

講師 学芸員 竹谷陽二郎
日時 一〇月一四日(日)午後一時半～三時半

※「鶴ヶ城の野鳥」
講師 野鳥研究家 古川裕司さん

日時 一月二八日(日)午後一時半～午後三時半
◎保存講座

※「バックヤードから見る博物館」
―収蔵資料の展示・保管の現状を見る―

講師 学芸員 松田隆嗣
日時 一月二二日(土)午後一時半～三時

◎実技講座
「からむしの糸つくり」

伝統技術保持者 日置 睦さん 平田尚子さん
日時 一月四日(日)午後一時半～三時半

※「わらぞうりをつくらう①」
伝統技術保持者 鈴木幸雄さん

日時 一月二日(日)午前二時～午後三時
※「唐人風つくり」

伝統技術保持者 鈴木英夫さん
日時 一月九日(日)午後一時半～午後三時

実演

場所 体験学習室

「注連縄つくり」

講師 伝統技術保持者 鈴木幸雄さん
日時 一月二六日(日)午後一時半～三時半

木曜の広場

場所 講堂 入場無料

旅人たちの見たふくしま

◎第七回「十返舎一九と『金草鞋』」
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 阿部綾子

日時 一〇月四日(木)午後一時半～三時

◎第八回「古川古松軒と『東遊雜記』」

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 一月一日(木)午後一時半～三時
◎第九回「高山彦九郎と『北向日記』」

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
日時 一月二六日(木)午後一時半～三時

体験講座

※は要申込

※「おもちゃをつくらう②」

講師 展示解説員 渡辺麻衣子 他
日時 一月三日(日)午後一時半～三時半

はくぶつかんで遊ぼう!

場所 体験学習室

「おもしろかわり絵をつくらう」

日時 一〇月一三日(土)
午前九時半～午後四時半

「クリスマスツリーかざりをつくらう」
日時 一月二一日(日)
午前九時半～午後四時半

常設展無料開放日

一月三日(土)・祝文化の日

企画展無料開放日

一月一日(木)～一月七日(水)

*ふくしま教育週間に限り、小・中学生、高校生は企画展を無料でご覧いただけます。

一〇～二月の休館日

一〇月 一日(月)・九日(火)・二五日(月)

十一月 二日(月)・二九日(月)

十二月 五日(月)・二二日(月)・二九日(月)・二六日(月)

一月 三日(月)・一〇日(月)・二七日(月)・二五日(火)

年末年始 一月二八日(金)～一月四日(金)